

1月26日(火曜日) 昭和の森四季の道「市民等による森の再生プロジェクト」案内看板を設置しました！



設置看板1



設置看板2



プロジェクト案内



植栽マウンドと植え付けた苗木



手入れ用の階段



手入れ用の通路

※市民による 1000 年の森づくりコンセプト

森は、奥山だけでなく里山でも環境上大切な場所として守り継がれてきました。  
 「森」という字は、大きな「木」の下に「林」を書いて成り立っています。  
 健康な森では文字のごとく、大木の下でどんぐりが芽生えたり、さまざまな世代の若木が控えています。  
 大木が折れたり伐採されたりした後は、それらの若木たちが「次は自分たちが森を守る出番だ」とばかりに成長し、残された大木は朽ちて、虫たち、微生物、そしてきのこたちの働きで大地に還り、次の森のいのちを養う糧となります。  
 こうして森はにぎやかに世代交代を繰り返しながら、千年万年と保たれてきたのです。  
 かつて、人々は暮らしの中で、資源をいただきながら、大切な場所として身近な森の営みを、世代を越えて見守ってきました。  
 今、環境の衰えとともに、森は継続する力を失いつつあります。

どんぐりは芽生えず、まるで限界集落のように若木が育たなくなり、多くが不健康な状態になっています。こうなると台風などで倒木した後も、もはや自らの力で森に戻ることはできず、まばらな灌木の林や藪へと姿を変えていきます。

1000年の森づくりには、森の営みを育む「大地の力」を再生することが必要です。

大木の根が水を大地の深くまで染みわたらせ、土の中の根やたくさんの生き物たちを育てていく。そうした土中の環境でこそ森の営みは持続できます。

健康な森は沢山の恩恵を分け隔てなく私たちに与えてくれます。

**持続し、自律して健康な営みを取り戻すことができる。それが1000年の森です。**

私たちの先祖が、子孫の未来を思って森を守り、手渡してくれたように、私たちもまた、未来のために大切なものを確かに繋いでいきましょう。